

平成27年度 三戸郡 小学校視聴覚研究会 研究報告

1 研究主題

学習効果を高め、基礎・基本の確かな定着を図るためのICT活用の研究

2 主題設定の理由

学習指導要領の総則では、「情報教育」及び「教科指導におけるICT活用」の充実が述べられている。特に「基礎的・基本的な知識・技能を習得させるとともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成し、主体的に学習に取り組む態度を養うためには、児童がコンピュータや情報通信ネットワーク等の情報手段を適切に活用できるようにすることが重要である。また、教師がこれらの情報手段や視聴覚教材、教育機器などの教材・教具を適切に活用することが重要である。」とある。

ICTの活用には、「学習指導の準備と評価のための教師によるICT活用」、「授業での教師によるICT活用」、「児童によるICT活用」の3つが挙げられるが、本研究会ではこれまでの授業研究において、主に教師が授業のねらいを実現するためのICT機器の効果的な活用を図ってきた。

これまで、日常の授業で実践できるよう、とりわけ実物投影機やプロジェクターといった簡易な機器の活用重点を置いて研究を続けてきた。その結果、ICT活用の目的を明確にもち、何をどのようにどれくらい見せるかを工夫することで、学習効果が高まる成果として明らかになってきている。さらに、昨年度の授業実践や研修会においてフラッシュ型教材へも取り組み、学習の定着のためのICT活用の有効性や工夫についても、今後研究すべき点として確認された。

上記のICT活用を踏まえ、その効果的な活用について、教科指導のなかで「基礎基本の定着を図る」ことに重点を置き、さらに研究を深めていきたい。

3 研究目標

基礎基本の確かな定着を図るため、学習意欲を高めたり、知識や技能を身につけさせたりするICTの効果的な活用を、授業実践を通して明らかにする。

4 研究仮説

学習指導の中の発問や指示等において、ICTの特性を踏まえ、活用を工夫していくことにより、より効果的に学習意欲を高めたり、知識や技能を身につけさせたりすることができる。

※主に、以下について授業計画及び授業実践、研修会を行う。

- ・指導の意図を明確したICT活用と発問・指示等の吟味。
- ・ICTの特性の理解と、活用による効果の検証。

5 研究内容

(1) 研究経過

4月27日(月) 第1回役員研修会

5月 1日(金) 郡小中教研総会(五戸町立五戸小学校)

5月18日(月) 第2回役員研修

7月30日(木) 夏季研修会(五戸町立上市川小学校)

「タブレット端末の効果的な活用」

講師 スズキ教育ソフト 鈴木 真理氏

9月 4日(金) 第1回指導案検討会

10月 5日(月) 第2回指導案検討会

10月27日(火) 教材研究会 兼 第3回役員研修会

11月 9日(月) 郡小学校教研Ⅱ群研究発表会

会場 階上町立小舟渡小学校

教科・単元名 1・2年生複式 算数

1年 ひきざん(2) 2年 かけざん(3)

授業者 川村希代子(小舟渡小学校教諭)

指導・助言者 鈴木 稔(三八教育事務所主任社会教育主事)

(2) 郡小学校教育Ⅱ群研究発表会の記録及び助言

① 本時の目標

1年：問題文を読み、文章題の意味を正しくとらえ、式を立てることができる。(数学的な考え方)

2年：2位数と1位数の乗法の計算について、乗法のきまりをもとに考えることができる。

(数学的な考え方)

② 研究仮説との関わり

ア 問題文の場面を、絵を用いて視覚的にとらえさせる。(1年)

- ・「いくつ分多いか」を求める引き算のイメージをつかませるため、プレゼンテーションソフトを活用する。

イ 自作のフラッシュカードを用いて、計算練習をさせる。(1年)

- ・導入場面でフラッシュ教材を活用し、前時の復習(スキル定着)と、頭馴らしをする。

ウ 自分の考えを実物投影機で映して発表させる。(2年)

- ・発表の機会を設けることで、自分の考えを伝える。

エ 自作のフラッシュカードを用いて、計算練習をさせる。(2年)

- ・自分たちで学習を進めていくことができるよう、児童に自ら操作させ、スキルの定着を図る。

③指導助言

- ・デジカメを活用した自作のフラッシュ型教材は、手軽さや学習を蓄積できる良さがある。また、問題を出している人が写っていることで学習意欲にもつながっていたようである。しかし、画面が見えにくかったことやフラッシュカードに答えが入っていなかった点など改善の余地がある。
- ・プレゼンテーションソフトを活用したことで、文章問題がイメージしやすくなった。
- ・実物投影機での発表は、子どもたちのプレゼン力の向上が期待できる。また、子どもたちの発表を聞き、その場でホワイトボードに教師が書き込むことで、発表したことが残り比較しやすくなっていた。
- ・子どもたちが自分たちで操作していることがよかった。

6 研究のまとめ

一斉指導昨年度まで数年間、実物投影機とプロジェクターを中心にして、基礎基本の習得のためのICT活用のあり方を研究してきた。これにより、日常的におけるICT機器の活用の工夫が研究され、見せ方やタイミングなどの研究成果が蓄積されてきた。今年度においても、基礎基本のためのICT活用という目標は変わらないが、複式学級での授業発表であったため、基礎基本を培うICT機器の活用という柱に加えて、複式学級における自主的な学習へのICT活用についても取り組んだ。

フラッシュ型教材の活用は、数年前から本研究会の夏季、冬季研修で扱ってきており、その有効性は確かめられてきている。今年度の授業でも、算数の基礎基本の習得の為に取り入れた。授業の検討会において、昨年度の研究の流れでタブレットPCの活用も話し合われたが、導入されている学校はほとんどないため、学校にある機器(デジタルカメラ)を活用することとなった。デジカメで児童が手書きをした問題を写し、デジカメで再生してフラッシュ型教材として活用してみたが、問題を出している人が写っていることで学習意欲が増し、その手軽さがメリットとしてあげられた。しかし、これがタブレットであれば人の顔や文字がよりはっきり見え、画像の切り替えも簡単に扱いやすくなるのは容易に想像でき、各校でのICT機器の充実が望まれる。今後、各校のICT機器が充実していけば、さわってみようという先生方も増え、操作に不安を感じる先生方が減ってくるものと思う。